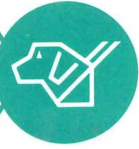


みなさんと日本盲導犬協会を結ぶ会報です

公益財団法人 日本盲導犬協会
発行人 金高 雅仁
223-0056 横浜市港北区
新吉田町6001-9
TEL.045-590-1595
FAX.045-590-1599
<https://www.moudouken.net/>

会報
第116号



盲導犬くらぶ



「ワン!ぱくっ子サマースクール」開催

自分で決めて、自分で行動!
“楽しんで成長”をこれからも後押しします



盲導犬とも歩いたよ



仙台訓練センターでは、今年、第19回目の「ワン!ぱくっ子サマースクール」を開催しました。視覚障害のある小学生とその家族を対象にした2泊3日のプログラムです。学校や地域を超え、子供たちは仲間と一緒にさまざまな体験を楽しみ、保護者たちは語り合います。参加した子供たちにとって、ここで過ごした時間が、より自分らしく過ごすきっかけとなるよう、これからも工夫を重ねていきます(2ページに関連記事を掲載)

TOPICS!

主なできごとの中からピックアップ

第15期パピープロジェクト修了式を開催 訓練生とパピーとの生活を振り返って

島

根あさひ社会復帰促進センター（浜田市）で7月1日、第15期の盲導犬パピープロジェクトの修了式が行われました。約8か月間にわたり訓練生（受刑者）がパピーの育成に取り組んできましたが、委託期間を終えて、3頭のパピーが協会に引き渡されました。

委託期間中、訓練生たちは、パピーに「人とのコミュニケーションは楽しいこと」と教えるために、オモチャで遊びながら「グッド！」と声をかけたり、たくさんなでることに挑戦。最初は上手にできなかった訓練生たちも、徐々にパピーとの関わり方に自信をもつように。最後に



は、訓練生の「グッド！」にパピーたちが尻尾をブンブン振ってうれしさを表現するほどになりました。

協会の金高雅仁理事長は、訓練生に「このプログラムを通して経験し、新たに学んだことをいつまでも大切に、

これからの生活に役立ててもらいたい」と言葉を送りました。この後、3頭のパピーの訓練が始まります。次なる第16期の盲導犬パピープロジェクトは11月に開始予定。訓練生とパピーたちの新たな挑戦に期待が膨らみます。

←修了式で、訓練生たちは「盲導犬になっても、なくても、これからも楽しく幸せでいられるように」と巣立つ犬たちへメッセージを送りました

「ワン！ぱくっ子サマースクール」開催 自分で決める！自由時間は楽しみで大切な時間

仙

台訓練センターでは、8月3日から2泊3日で「ワン！ぱくっ子サマースクール」が行われ、視覚障害のある小学生7人とその家族が参加しました。地元の宮城教育大学からは、特別支援学校の教員を目指す学生8人が、みんなで楽しめるゲームを携えて参加しました。子供たちは乗馬（表

紙写真）など非日常を楽しむ一方で、身支度や買い物など日常の事も自分たちで行いました。



紙写真は、まず模型で確認。線香花火の模型は、ストローの先端にクリップを付けクリップに磁石をぶら下げて、火の玉がゆらゆらすることや落ちることを体感。線香花火の火が落ちることを初めて知ったと驚きの声も

最初は緊張していた子供たちも、ゲームやお風呂ですっかり仲良しに。親から離れて、普段と違うたくましい姿を見せてくれました。帰るときには、「また参加したい」と3日間を満喫した様子でした。

※サウンドテーブルテニス：転がると音がするボールを使って行う卓球競技

●各センター活動報告(7月~9月)

(2024年9月30日現在)

		神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハーネス	島根あさひ訓練センター
訓練・視覚障害サポート	共同訓練	1回	0回	0回	0回
	パピーレクチャー	20回	11回	11回	4回
	パピーウォーキング修了式	1回	2回	2回	1回
	ユーザーフォローアップ	31回	12回	16回	20回
	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	8回	9回	6回	0回
リハビリテーション	各種オンラインセミナー	5回			
	短期リハビリテーション	1回	1回	0回	0回
	その他リハビリテーション	137回(130人)	201回(189人)	80回(92人)	23回(13人)
普及推進活動	受け入れセミナー	4回	11回	10回	2回
	小・中学生向け美演	8回	11回	26回	26回
	一般向け美演・贈呈式・募金活動等	14回	17回	14回	11回

視覚障害者のための鉄道の安全な利用方法 講習会をJR青森駅で開催

9月2日、JR青森駅で「見えない・見えにくい方の安全な鉄道利用のための歩行講習会」を開催しました。この講習会は、仙台訓練センターが東日本旅客鉄道株式会社の協力を得て行っているもので、2018年にJR仙台駅で初開催、その後、JR福島駅、JR山形駅、JR秋田駅で実施し、今回が7回目になります。

当日は、盲導犬や白杖を使って歩く視覚障害者6人と駅職員3人が参加しました。協会の視覚障害サポート部職員が、実際の駅ホームを使って電車の乗降の仕方やホームでの歩き方を講習したほか、音声案内が付いた券売機の体験利用も行いました。

参加した視覚障害者からは「列車連結部分を触って確認するなど貴重な体験ができた」「駅利用を諦めていたが、やってみようという気持ちになれた」「すぐにも券売機を使ってみよう」と今後の駅利用に前向きな声が寄せられました。駅職員からも、視覚障害者が駅の利用に不安を感じている生の声を聞いて実感し、学びが得られたと反響がありました。

今後も鉄道事業者や各地域の支援団体と連携しながら、歩行講習会を続けていく予定です。



↑白杖で点字ブロックを確認しながらホームを安全に移動する方法を確認。協会職員がその場で一人ひとりに適切な指導を行います

日本盲導犬協会の歩み

- 7月18日 第4回常任理事会
- 8月19日 第5回常任理事会
- 9月12日 第6回常任理事会

→8月1日 広島県の廿日市市山崎本社 みんなのあいプラザで市社会福祉協議会協力のもと「盲導犬サマースクール」開催。小学生ら75人に盲導犬の役割などを伝えました



↑8月10日~11日「富士ハーネスサマーミーティング2024」を開催。各種バイク車両展示や、全盲クライマーの映画上映などを実施しました



←8月8日 NX商事株式会社の創立60周年記念行事の一環として、同社から協会へ、今回で2回目となる車両寄贈が行われました

メディア掲載件数	
テレビ・ラジオ	21回
新聞	41回
WEB	182回
その他(雑誌など)	13回

主な放送・掲載

7月2日 TSKさんいん中央テレビ、2紙、WEB7件 島根あさひ社会復帰促進センターの第15期パピープロジェクト修了式を紹介
7月2日 テレビ静岡他1局、4紙、WEB4件 静岡県庁勤務の協会ユーザー若本さん&カドルの県議会常任委員会出席を紹介
7月18日 共同通信デジタル他WEB52件 協会配信リリース「日本盲導犬協会が「歩行訓練事業助成金交付」事業を開始」の記事掲載
7月25日 地域情報誌「タウンニュース」 横浜市六角橋地域ケアプラザでの夏休み自由研究企画「もっと知ろう盲導犬」を紹介
7月 日本海テレビ 同社主催「盲導犬育成キャンペーン」でキャンペーンCMに協会の盲導犬PR犬が出演
7月26日 共同通信デジタル他WEB56件 協会配信リリース「富士ハーネスサマーミーティング2024を開催」の記事掲載
8月2日 中国新聞他WEB7件 廿日市市と広島市安佐南区で開催した「盲導犬サマースクール」の様子を紹介
8月5日 WEBサイト「Inclusive Hub」 ユーザーでもある押野協会職員の談話掲載。初盲導犬歩行時の心情や事業課題がテーマ
9月2日 ABA青森朝日放送他WEB2件 JR青森駅で開催した視覚障害者対象「安全な鉄道利用のための歩行講習会」を紹介

※協会ホームページにも毎月の放送・掲載情報を公開しています。順次更新しますのでご覧ください。

盲導犬育成事業の未来へ向けて ~より多くの視覚障害者とつながる機会を創る

2022年の厚生労働省による調査では、国内の視覚障害者数は27万人と推定されていますが、適切なサポートがなされないまま、外出できずにいる方が多くいます。そうした方を盲導犬などの必要な支援へと結び付けるためには、より多くの接点をもって、「見えなくても一人で外出することができる」ことを伝える必要があります。必要とする人に盲導犬を届けるために、最近協会が始めた視覚障害リハビリテーションに関する新たな三つの取り組みを紹介します。

「ロービジョンケア・ハブ」を開設 ~病院内に視覚障害者が立ち寄れる場所を

眼科で「見えにくさは治らない」と診断された方が、その後、どこに相談してよいかかわからず、必要な支援を受けられない現状があります。眼科からなかなか支援につなげられない状況に対して、協会は「ロービジョンケア※1」に力を入れる医療機関と連携して、視覚障害者を支援機関につなげるための仕組みを模索してきました。

今年7月、新たに慶應義塾大学病院(東京都新宿区)の中に、予約なしで相談ができる「ロービジョンケア・ハブ」が開設されました。誰でも気軽に立ち寄ることができ、遮光眼鏡、音声読書機器、調理グッズなどの展示もあり、機器を試すこともできます。

慶應義塾大学医学部眼科学教室



↑視覚障害当事者でもある協会職員が相談対応に当たり、困りごとや必要なサポートを聞き取っていきます

と協会の共同研究として「ロービジョンケアに対するカウンセリング効果の研究」が今年4月にスタート。ロービジョンケアを必要とする多くの視覚障害者に対して、福祉、教育、就労、生活の工夫などさまざまな分野の情報を病院内で提供し、地域の支援機関や団体へつなぐ拠点となり、共同研究の場となることを目的として、本施設が開設に至った経緯があります。

運営は同大学と協会が共同で行っていて、協会からは視覚障害サポート部職員が現場での対応に当たっています。同大学病院の患者の他、ホームページやSNSの情報から存在を知って訪ねてきた方など来場者はさまざま。こうした方々の話をじっくり聞き、必要としているサポートを明らかにしたうえで支援機関へつなぎます。一人で外出することを諦めている人がいたら、「外出ができる方法がある」ことを伝え、白杖を實際



↑慶應義塾大学病院3号館3階に常設された「ロービジョンケア・ハブ」施設内の様子。4階には眼科外来があり、そこから立ち寄ることも。機器展示や情報提供の他、各種関連イベントも開催しています(眼科外来は要予約)

「ロービジョン学会」への参加 ~医療関係者へ盲導犬歩行を紹介

病院内にロービジョンケアの施設を設けることは簡単ではありませんが、眼科医の間では、ロービジョンの方に対して迅速で適切なケアを実現する方法を模索しようとする動きもあります。2023年6月、協会はそうした医療関係者が集う「第24回日本ロービジョン学会※2学術総会」に参加、初となる自主企画セミナーを催行し、盲



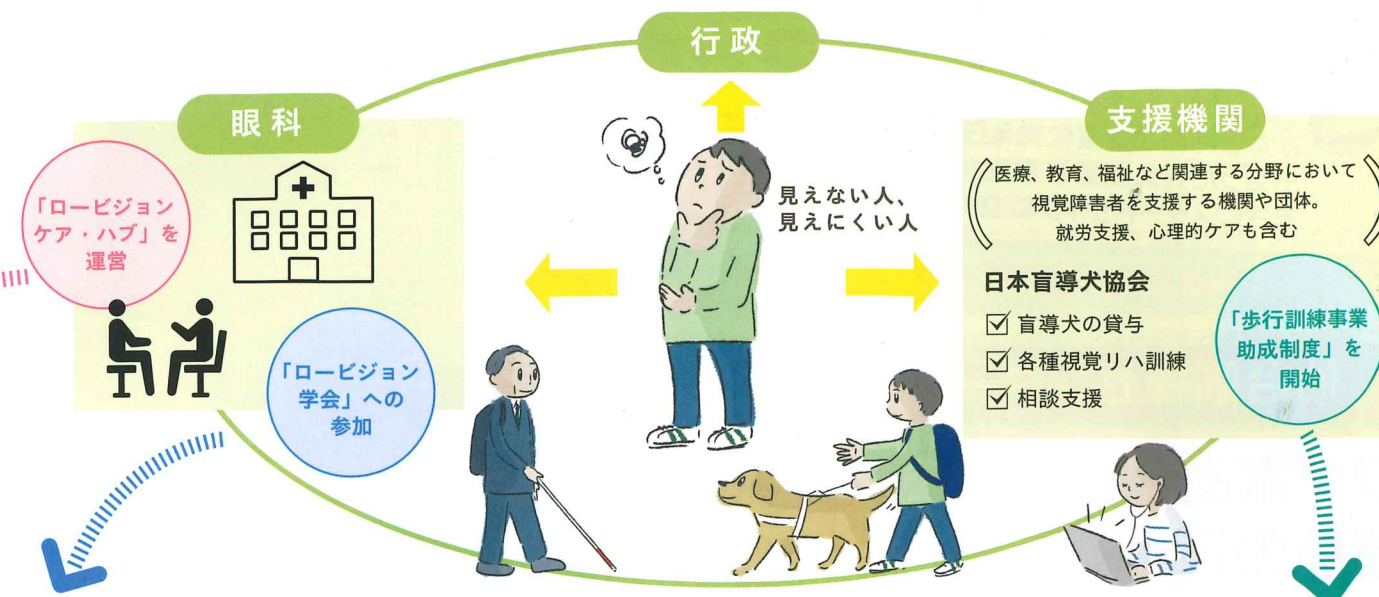
↑2023年に参加した学会の様子。協会職員が眼科医ら150人に向けてセミナーを実施

手に取ってもらうこともできます。盲導犬歩行の情報も伝えることで、その方の選択肢が広がることが期待できます。

「ロービジョンケア・ハブ」の詳細はこちらから▶



協会の取り組みと視覚障害リハビリテーション



「歩行訓練事業助成制度」を開始 ~白杖等の歩行訓練事業者へ助成

協会は今年7月に「歩行訓練事業助成制度」を開始し、本誌115号でその概要を報告しました。視覚障害者に白杖等の歩行訓練を行う事業者に対して助成金を交付する取り組みです。歩行訓練事業者と連携して訓練を受けやすい環境を整えられれば、視覚障害者との接点も増え、必要な支援情報を届ける機会が生まれます。白杖を使って歩く方が「盲導犬と歩きたい」と希望したときに、スムーズに盲導



↑白杖での歩行訓練の様子。杖つみぎを手に入れる方法や、使い方の訓練が受けられるなどの情報が当事者へ行き渡るよう、眼科の他さまざまな支援機関との連携が必須です

犬を提供できるよう、歩行訓練事業者とつながっていくことが必要だと考えています。

協会では、視覚障害リハビリテーション協会の事務局を担うなど、視覚障害者支援に関わるさまざまな専門家、団体との連携へ向け、積極的に関わってきました。視覚障害者のニーズに応えるためには、眼科、支援機関、関連するすべての人とのネットワークが不可欠です。

新たな事業を通じて、協会は医療関

係者との連携をよりいっそう深めていくと同時に、歩行訓練士などの支援者、団体の活動を後押ししていきます。共に視覚障害者支援の土台を作っていくことで、盲導犬を必要としている人との接点づくりがよりいっそう促進されることを願います。

持続可能な盲導犬育成事業の未来を描き、協会は愚直に歩んでいきます。



↑視覚リハの一つである盲導犬歩行を実演。眼科医に盲導犬歩行という選択肢を知ってもらうことで患者への情報提供をスムーズに

※1 ロービジョンケア:ロービジョン(Low Vision)とは、何らかの原因により視覚に障害を受け「見えにくい」「まぶしい」「見える範囲が狭くて歩きにくい」など日常生活での不自由さをきたしている状態を指します。これらに対する医療的、教育的、職業的、社会的、福祉的、心理的等すべての支援をロービジョンケアといいます(Webサイト「ロービジョンケア・ハブ」より引用)
※2 日本ロービジョン学会:視覚障害児・者へのリハビリテーションに関する学際的な研究および臨床の向上と交流を目的に設立。眼科医、視能訓練士、看護師といった医療関係者のほか、ロービジョンケアに関わる関係者約850人が活動しています
※3 視覚障害リハビリテーション:見えにくい・見えにくい状況の方々が、安全でその人らしい生活を送れるようになることを目指して受ける、支援や訓練などの総称です。医療・教育・福祉・就労などの分野において実施されており、それぞれの分野には障害者をサポートする専門家がいます(Webサイト「国立障害者リハビリテーションセンター」より引用)

スタートライン

みなさんのご支援に支えられて新しいパートナーと出会った共同訓練卒業生たち。喜びに満ち、まさにスタートラインに立ったところ

2024年8月までの共同訓練卒業生

●各ユーザーの紹介項目

ユーザー名・所在地(盲導犬歴)
盲導犬名(雄♂/雌♀) 犬種
①共同訓練期間
②パピーウォーカー名

●犬種記号

LR: ラブラドル・レトリバー
GR: ゴールデン・レトリバー

仙台訓練センター

ファボと一緒に80点を目指す 残りの20点はゆとり

子どもの頃からずっと犬がいた生活をしてきた西塚さん。白杖を持つようになってからは、盲導犬のことが気になっていました。14年前、パソコン訓練を担当した仙台訓練センターの職員の話をつきかけに、1泊の盲導犬説明会に参加。大きな犬を飼うのが希望でもあった西塚さんは、盲導犬との歩行を即決しました。今やベテランの盲導犬ユーザー、ファボは3頭目のパートナーです。

共同訓練の初日、手を伸ばすと、2頭目のパートナーのハートンより一回りほど大きいファボに触れ、思わず「でかいっすね〜」と声がこぼれました。多少のよそよそしさはあったものの、訓練センター近くのバス停まで、すーっと一緒に順調に歩けたことがとにかくうれしくて、早く上手にコミュニケーションが取れるようになりたいと思ったそうです。

久しぶりの共同訓練では、歩き始めの動作など、基本の動作が自己流

になっていたことに気付かされました。動作の再確認をしながら、慣れない同士で歩く。それでも、ファボとの訓練はそんなに大変ではなかったと振り返ります。というのも、西塚さんがファボと目指しているのは80点。「残りの20点は不足ではなくゆとり」と西塚さん。いつからか、盲導犬との歩行についてそう考えるようになっていました。

西塚さんとファボは、よく近所のスーパーへ出かけます。その際、まっすぐ進まなくてはいけない角を、ファボは左に曲がりたがります。左にはよく利用するバス停があり、ファボはそこでの待合の椅子にチェア*するのが大のお気に入りなのです。そんなとき、

西塚さんはファボを一度座らせ、リセットしてから「レフトゴー」の指示で左に曲がります。「曲がってもスーパーに行けるから。そこがゆとり、3頭目のキャリアかな〜」と笑います。とは言え、スーパーの帰り道で重い荷物を持っているときは、しっかり「ストレイトゴー」と伝え、家路につきます。自分に余裕がなくなると危険につな



西塚 敏也さん
宮城県加美郡(3頭目)
ファボ(♂)GR
①2024.5.20~6.3
②角田 厚子さん

↑共同訓練中はいつも前向きで笑顔だった西塚さん。家で大きな体であおむけに寝ているファボがかわいくて仕方ないと言います。ファボのしぐさに吹き出すこともしばしば

がると知っている西塚さんは、こうしてメリハリをつけて歩いています。

ファボとたくさん散歩をしたいという西塚さん。目的地だけを決めて出発する西塚さんとファボの散歩では、西塚さんが太陽や風の向きにも気を配り、しっかりアンテナを張って目的地までの大まかな方向をつかんでいます。ファボと一緒に角と段差を見つけ、ぶつかったり転んだりせず、目的地にたどり着く。これから、二人ならではのゆとりの散歩を楽しみます。



→尺八の師範「西塚山」さん。尺八の音には鼻で笑って先をつくともう笑います。うさぎって言うって

*チェア:イスの座面にあごを寄せ、座れる場所をユーザーに知らせる盲導犬の仕事

神奈川訓練センター

齋藤 滋さん
仙台市(1頭目)
ヨアン(♂)LR
①2024.5.20~6.14
②佐々木原 亮さん



大柄で脚の長いヨアンは長身の私と並んでもピッタリ。大震災で道に小さな起伏がたくさんできて、白杖で歩いていた頃はつまずくことがありました。ヨアンなら、ちゃんと教えてくれるので安心して歩けます。職場の人気で「こんなに人懐こくて大丈夫?」と思うほど尻尾をプルプルさせて愛嬌を振りまき、営業

まわりや販売会の仕事にも同行することに。とにかく一緒にいるとおもしろい! 趣味の歌声喫茶の他、国内外の旅行にも挑戦したいです

小田 裕一郎さん
神奈川県足柄上郡(3頭目)
コパン(♂)LR
①2024.6.17~6.28
②川北 武範さん



コパンはマイペースで、初めの頃は家を出てすぐに歩かなくなって苦労しましたが、少しずつ歩く距離を伸ばして、最近は歩行も生活もリズムが合ってきました。考えごとに夢中でうっかり指示を出し忘れても、コパンは「どっちへ行くの?」と指示をじっと待ってくれます。コンビニへ行く道には2つ信号がありますが、地域には他に信号がないので、横断練習も兼ねて毎日通い、スイーツを買って帰ります。電車も利用して行動半径を広げていきたいです

今村 法子さん
神奈川県伊勢原市(2頭目)
ノイ(♀)LR
①2024.6.3~6.18
②三浦 智香子さん



クンクンと鼻を鳴らし「小柄で繊細な女の子」だったノイ。不安もあった共同訓練ですが、ノイの良さ、得意なことを見つけて褒めたり、染み着いた自分の歩行の癖や指示の出し方を改めたりして、少しずつ歩調が合ってきました。今やノイは「目や杖の代わり」ではなく欠かせない存在に。仕事に趣味に目まぐるしい毎日のなかでも、ノイはときどき好きな場所に寄り道をして超マイペースぶりを発揮。そんな相棒と、新しいことに挑戦し続けたいです

福田 進久さん
茨城県牛久市(2頭目)
ユニバー(♂)LR
①2024.6.17~7.5
②石川 洋輔さん



朝4時半起きでユニバーの排泄とご飯を済ませ、早朝散歩に出発です。公園の外周をユニバーのペースでゆっくり歩いたり、小走りしたりとメリハリをつけて楽しんでます。先日犬に出くわした際、「行くよ、ゴー!」と指示を出すと、ユニバーはサッと右に避け、その後、道の左端にしっかり戻りました。二人の息がピッタリ合って爽快でした。どこでも排泄ができるので、仕事に趣味に安心して出かけられます。秋には自動車運転にも挑戦します

富士ハーネス



岩本 多加臣さん
静岡市(1頭目)
カドル(♂)LR
①2024.5.13~6.7
②丹羽 啓子さん

当初から歩行もトイレも安定感抜群のカドル。最近は新しい生活にも慣れ、甘えん坊カドルを発揮しています。目の機能が低下していくなか、盲導犬に何をどれだけ期待でき、何が解決できるのか、正直疑問でしたが、左側で懸命に先導してくれる姿や大きな

体を一杯縮めて膝の中に収まる姿を見ると、余計なことは考えなくてよいかと思えます。たとえ盲導犬にはできないことでも、カドルは相談に乗ってくれそうな気がします

島根あさひ訓練センター

朝、2階の寝室から降りると、尻尾を振って待っているジェニー。自宅の治療院では、仕事が終わる雰囲気を感じると、マットの上で尻尾を振って待っています。股ぐりをして遊ぶのも大好きで、すり寄って甘える姿がかわいいです。家に知らない人が来たり、「ピンポン」と鳴ったときにちょっと驚くビビりな一面もありますが、名前を呼ぶと落ち着きます。旅行が大好きなので、いろんな所に行ってジェニーとたくさん楽しみたいです



村上 隆さん
広島県福山市(3頭目)
ジェニー(♀)LR
①2024.6.6~6.18
②古澤 真由美さん

知って、理解して、誰もがHappyな社会へ



盲導犬と歩くときのユーザーの役割

前回まで、盲導犬の基本の仕事「角を教える」「段差を教える」「障害物をよける」に触れました。今回は歩くときのユーザーの役割のお話です。盲導犬歩行では、盲導犬ユーザー(user=使う人、ユーザー)と犬がそれぞれの役割を担い、協力して歩きます。ユーザーの役割は、目的地までの地図を自分の頭の中に描き、犬が教える情報を使って歩くことです。

私たちが歩くときには「自分が今どこにいるのか」「目的地はどこか」「どうやって目的地に行くか」の3

つが必要です。盲導犬と歩くとき、ユーザーは「自分が今どこにいるのか」を知るためにさまざまな情報を取得します。盲導犬の目を通じて得られる角や段差のほか、ユーザーが体感する足元の状況、周りの音や匂いも歩くための情報です。ロービジョン*のユーザーは目からも情報を得ます。

次に、得た情報のうちなるべく3点以上を分析して「今どこにいるのか」を判断します。判断をもとに、この角は曲がる、まっすぐ進む、この交差点は渡るなど「どうやって目的地に行くか」に合う指示を盲導犬に出します。こうした情報取得、分析、

判断、指示を一つひとつ積み重ねて目的地まで歩くのです。盲導犬は目的地を設定したら連れていってくれるナビではないので、分析を間違えば迷うことも。あくまでもユーザーが責任をもって歩きます。

今回は、電車やバスの中、お店や訪問先で盲導犬が担っている仕事を紹介します。お楽しみに！



↑横断歩道の手前で、歩道と車道を分けるわずかな段差を教えるのは盲導犬の役割。段差を確認し、周りの人の様子や車の走行音などから判断して「ゴー」と指示するのはユーザーの役割。盲導犬は信号の色を判断しません

*ロービジョン:視力が低かったり、視野が狭いなどの見えにくい状態

盲導犬育成を支える ボランティア LIFE

1頭目のパピーとの日々 奮闘しながらパピーウォーカー生活を楽しむ

島根あさひ訓練センター
パピーウォーカー ● 磯根さん一家 ● (広島市)



→人に触られるときなどは、全身でうれしさを表現するパピー。人が大好きな犬なので、そういった良いところは大切にしたいし、ずっとそのままでいてほしいです」と伸久さん(左)と真由美さん(右)、9か月時のパピー

磯 根伸久さん、真由美さん夫婦は、パピーウォーカー(以下、PW)として初めて受け入れたアビーと暮らしています。30年ほど前、ラブラドル・レトリバー(以下、LR)を飼っていたときに、盲導犬にはLRが多いことを知りました。5年後、伸久さんの仕事のつながりで盲導犬ユーザーと関わり、よりいっそう盲導犬に興味をもつように。その後、伸久さんが定年を迎えたことをきっかけにPWに申し込みをしました。

2024 年1月、アビーとの生活がはじまりました。伸久さんと真由美さんにとって、アビーへの接し方は想像以上に戸惑うことが多く、「盲導犬候補の子犬を預かっている」という責任感に押しつぶされそうだったと振り返ります。

ア ビーは、自宅のウッドデッキの木を噛んだり、スリッパをくわえたり、いたずらが絶えません。散歩中の落ち葉や小石などの拾い食いも日常茶飯事。月1回、兄妹犬たちが集まって協会職員からレクチャー

→委託日に生後2か月のアビーを恐る恐る抱っこする真由美さん。膝の上で寝ていたアビーが、2か月後に膝の上に収まらないうらいに成長し、うれしさ半分、寂しさ半分



→7月13日、フェリーに乗って宮島へ。宮島行きは『することリスト』に掲げた一つ。大切な思い出になりました

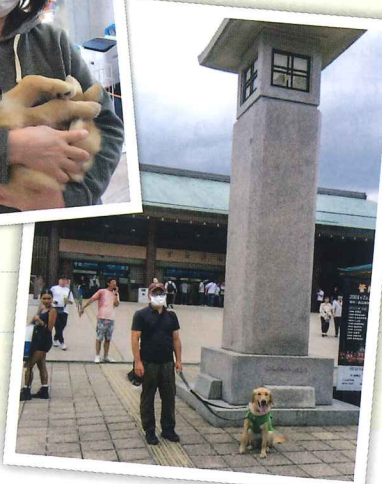
を受ける際は、ほかの兄妹犬との差を感じて焦ることもしばしばでした。

伸 久さんと真由美さんには大切にしていたことがあります。アビーがいたずらをしたとき、アビーを叱るのではなく、自分たちの接し方や行動に気を付けたり、たくさん褒めるように意識していました。ウッドデッキで木を噛もうとしたら、コンクリートブロックでその部分を隠したり、植木鉢を置いてみたり、自分たちがそこに立ってアビーが近づけないようにしたり、工夫を凝らしました。また、拾い食いをしたときには「アウト」と言って、口の中から出させた後、「グッド!」と褒めるようにしていました。工夫の甲斐もあって、アビーは少しずつ落ち着き始めました。

最 初は「この先何度もPWするのは無理かも…」と思っていた伸久さんと真由美さんですが、アビーの様子が少しずつ変わってきたことや、先輩PWから「私たちはパピーを元気に育て上げたら大丈夫!」と言われたこともあり、「やっぱりもっと楽しもう!」と気持ちに変化が。

最 近、アビーとの残りの生活でやりたいことや行きたい所を二人で書き出して『することリスト』を作成しました。広島市の平和公園やマツダスタジアムへのお出かけ、日帰り倉敷旅行など楽しみなことばかりだと言います。「人がたくさんいる所に行って、アビーにいろいろな経験をしてもらいたいです。試行錯誤で本当に大変な毎日だったけど、やっぱり犬がいる生活は楽しいなって思います」

わかさ生活は盲導犬の育成を応援しています



心がふれあう

Heart to Heart

視覚障害や盲導犬について理解を深め
盲導犬ユーザーが生き生きと
安心して暮らせる社会を目指して
心のバリアフリーを広げる活動を紹介します

「始めたら継続してこそ意味がある」

第一貨物が支援20年、物流企業としての責任を社会貢献で



● 東北が拠点の第一貨物 ● 当協会活動知り支援へ

第一貨物株式会社は山形市に本社がある物流企業です。1941（昭和16）年に山形県合同貨物自動車として創業、以来80余年にわたって貨物の運送に携わり、現在では北海道から兵庫県まで全国71か所で事業所を展開しています。

同社による視覚障害者支援は、故・武藤幸規前社長（のちに会長）の熱い思いから始まりました。「トラックで荷物を運ぶ我々の仕事は公共の道路があつてこそ。道路を使うことへの感謝を表そう」と事業に関わる分野で社会貢献活動を行うことを提言したのです。

同じ頃、日本盲導犬協会は、東北初の盲導犬育成施設として仙台訓練センターを開設。視覚障害者支援事業を積極的に推し進めていました。同じ東北でのこうした活動を知った第一貨物は、前社長の提言を実現す

↑当協会の法人賛助会員として20年にわたり支援を継続している第一貨物。当協会から感謝状を贈りました。松田伸三常務取締役（左）と米田総一郎社長（中央）

るべく、視覚障害者を支援しようと、2005（平成17）年に協会の法人賛助会員となりました。以来20年間、賛助会員を続けています。

● 震災による混乱期にも ● 視覚障害者支援を継続

継続支援20年の間には東日本大震災があり、第一貨物も被害を受けました。それでも途切れることなく視覚障害者支援を続けた原動力は、これまでに培ってきた「始めたら継続」という教えと、社員に根付き始めていた社会貢献への前向きな姿勢でした。

「一度始めたことは、それが世の中のため、従業員のためになるなら、どんなに困難なことがあっても継続してこそ意味がある」と語っていた前社長の教えは、社員の間でも大切にされていました。

同社にとって、日本盲導犬協会へ

の支援が初めての社会貢献活動。まずは法人賛助会員としての思いや活動を広く社内に知らせることから始めようと、盲導犬の知識や支援の様子を社内で紹介したところ、社員の間で瞬く間に関心が高まり、意識が変わっていったといいます。これを機に社会貢献への姿勢が根付き、支援継続の大きな力となりました。

● 公共道路を利用する ● 事業者の責任として

第一貨物では、新入社員研修の一環として仙台訓練センターでの研修を取り入れています。盲導犬育成施設の視察、視覚障害者のサポート方法の習得を行うもので、社員一人ひとりに社会貢献の意識をもってほしいという経営陣の考えに基づいています。

米田総一郎社長は「弊社は公共の道路を利用し全国ネットワークで事業を行う物流企業としての責任を果たすべく、これからも盲導犬普及の支援活動を通じて、視覚障害者の方々が安心して暮らせる社会の実現に少しでも貢献できるよう、私たちも学びながら、一緒に歩んでいきたいと考えています」と力強く語ります。



↑毎年、仙台訓練センターで新入社員研修を実施しています。視覚障害者への声掛けや誘導の仕方、盲導犬に関わる法律も学んでいます

生まれました

2024.6.30 誕生

オス2頭
メス3頭
父犬ジープ(東日本盲)(LR)×
母犬ユラ(LR)

2024.9.3 誕生

メス4頭
父犬ベイリー(LR)×
母犬シオン(LR)

2024.9.10 誕生

オス4頭
メス3頭
父犬ビエール(GR)×
母犬エラ(GR)

2024.8.26 誕生

オス3頭
メス4頭
父犬キューイ(LR)×
母犬キャリー(LR)

2024.7.9 誕生

メス4頭
父犬イッピー(GR)×
母犬ロザンナ(GR)

みなさんに
支えられて

6月11日～9月10日

犬種記号
LR/ラブラドル・レトリバー
GR/ゴールデン・レトリバー

委託しました

父犬オアシス(九州盲)(LR)×母犬デミー(LR)	父犬イッピー(GR)×母犬ロザンナ(GR)
イジェ♂ 安齋 和郎さん	ナノハ♀ 水野 智秋さん
イグニス♂ 森 久容さん	ニウ♀ 川崎 香里さん
アイビー♀ 金田 浩司さん	ニケ♀ 望月 朋子さん
インディー♂ 柴田 美樹さん	ナディア♀ 酒井 沙織さん
インク♂ 高木 恵さん	
イト♀ 竹内 利春さん	父犬ジープ(東日本盲)(LR)×母犬ユラ(LR)
イロリ♀ 高井 貴子さん	ムツ♂ 松田 教子さん
	モナカ♀ 櫻井 和広さん
父犬マルセル(LR)×母犬グロリア(LR)	父犬ジープ(東日本盲)(LR)×母犬サラ(LR)
ジョリィ♀ 徳永 かなさん	クローネ♀ 工藤 和弘さん
ジャンヌ♀ 末武 卓さん	ココ♀ 石川 正子さん
ジュエル♀ 濁川 敬子さん	カレア♀ 安住 陽一さん
ジューン♀ 大土井 崇雄さん	クルム♂ 田手 元子さん
ジュナ♀ 旭 勇翔さん	
ジェイド♂ 滝田 淳子さん	父犬ライオン(GR)×母犬ケイト(日ラ)(GR)
ジャスパー♂ 菅原 綾子さん	リラ♀ 木崎 久美さん

亡くなりました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	死亡日
メイ♀	梅原 慈香さん	林 健二さん	2024.6.15
コロソ♀	小宮 祐子さん	坂本 みどりさん	2024.6.16
クルーズ♂	西 寿一さん	辻元 久志さん	2024.6.28
ケイン♂	繁殖引退犬	宮本 幸江さん	2024.6.29
リッキー♂	森川 加奈子さん	石田 曜子さん	2024.7.5
シリウス♂	繁殖引退犬	松井 里咲さん	2024.7.7
キューロ♀	北澤 とも江さん	渡邊 十四枝さん	2024.7.27
セイル♂	西田 孝二さん	今岡 良太さん	2024.8.13
メロディ♀	山崎 美智子さん	林 圭介さん	2024.8.21
ジニー♀	繁殖引退犬	西村 剛史さん	2024.9.3
ジャンプ♂	繁殖引退犬	岩崎 正子さん	2024.9.4
マーク♂	石崎 慎治さん	井筒 知恵子さん	2024.9.5

盲導犬育成状況

合計頭数...698頭(2024年10月2日現在)

委託前パピー	17頭	繁殖犬	47頭
パピー	76頭	PR犬	13頭
訓練犬	82頭	引退犬	173頭
盲導犬	229頭	繁殖引退犬	61頭

引退しました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	引退日
ディート♂	小田 裕一郎さん	森川 克巳さん	2024.6.17
ビーネ♂	阿部 慶太さん	大竹 国仁さん	2024.6.24
ジュライ♂	阿部 貞信さん	阿部 かつ子さん	2024.7.15
ギンガ♂	金子 正次郎さん	小山 隆弘さん	2024.8.5

※イギリスの盲導犬育成団体(GDBA)からの凍結精液を使用した人工授精
※それぞれ東日本盲導犬協会、九州盲導犬協会、日本ライトハウス

みなさんと協会をつなぐ

ハーネスひろば



みなさんから届いたメッセージや協会からのお知らせなどを紹介します



お父さん犬とお母さん犬がイギリスから来日!

盲導犬の繁殖ネットワークは世界に広がっています
今年度イギリスからやってきた3頭を紹介します

オータムは盲導犬候補犬として協会で訓練を受けたあと、仙台訓練センターで3年間、東北地域のみなさまに愛されながらPR犬として活動し、7歳になる直前に引退して、我が家に来ました。北海道から九州までいろんな所へ一緒に行き、楽しくかけがえのない時間を過ごすことができました。どこへ連れていっても本当に愛される自慢の犬です。

そんなオータムは2024年6月30日に逝ってしまいました。オータムが私たち家族に与えてくれた歳月は、子供たちの成長と共に家族を築くうえで大切な要となり、いろんなことに気付かされ、人生を豊かにしてくれました。

命あるものいつかは…と理解していても、いつまでも一緒にいられるのではと思わされるほど、人に寄り添い、存在感のある大事な家族となりました。オータムにはたくさんの「ありがとう」しかありません。



↑オータム10歳の誕生日に家族旅行へ

静岡県掛川市
渡辺さん一家より



ヴァルニー(♂)
とてもフレンドリー♡
あっという間に日本での生活に慣れました



エラ(♀)

いつもご機嫌でニコニコ😊人のそばでのんびり過ごすのが大好きです



コニイ(♀)

散歩や遊びが大好き!一緒にいる人をうれしそうに見上げます😊

編集室より

『盲導犬くらぶ』の感想やご意見をお待ちしております。

●あて先

公益財団法人日本盲導犬協会
盲導犬くらぶ編集室
〒150-0045
東京都渋谷区神泉町21-3-3F
FAX:03-5452-1267
e-mail: info@moudouken.net

●イベント情報はホームページやSNS上に掲載しております。



↑ホームページ



↑X



無理なく、続けられる

ナチュラープラス®

The Global Healthcare Company

私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。



株式会社 ナチュラープラス 〒106-6035 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー35F
TEL 03-6230-3311 FAX 03-6230-3011 URL <http://www.naturally-plus.com>



株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆さまの善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。

株式会社インテージ
<http://www.intage.co.jp/>



キューモニター募集
<https://www.cue-monitor.jp/>